

信頼の力を 未来へ!

南成人新会長へバトンタッチ

『第59回日本公認会計士協会定期総会』開催



2025年7月23日、『第59回日本公認会計士協会定期総会』が開催されました。今年は3年に1度の役員交代があり、茂木哲也会長から南成人新会長へバトンが渡されました。来賓挨拶では石破茂内閣総理大臣(代読)、加藤勝信金融担当大臣、山道裕己日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループCEOから、日本の未来における公認会計士の役割についてお話しいただきました。

石破茂内閣総理大臣

(代読：橘慶一郎 内閣官房副長官)

石破内閣では『骨太方針2.0』で示した通り、将来が明るくなると実感できる日本の実現を目指しています。具体的には名目GDPを600兆円から2040年に1,000兆円に引き上げ、平均所得を5割以上増加させることを目指しています。そして成長型経済の実現には投資の促進が必要であり、貯蓄から投資への流れを着実なものとする資産運用立国の政策を進化させていくことが重要です。

この一環として、企業の持続的な成長と中長期的な価値の向上に向けたコーポレートガバナンス改革のアクションプログラム2025を公表しました。企業と投資家との緊張感ある信頼関係に基づく対話を促進する中では、企業による情報開示が前提となります。公認会計士の皆様には情報開示

の信頼性確保に一層の役割を果たしていただき、上場企業の企業価値向上と同時に、サステナビリティといった社会課題の解決に資金が集まる流れを実現する推進力になっていただきたいと期待しております。



加藤勝信 金融担当大臣

加藤勝信 金融担当大臣

本日は皆様に関連の深い施策を3つご紹介いたします。第一は有価証券報告書の株主総会前の開示です。本年3月、全上場企業に対して検討いただくよう要請しました。貴協会からも上場会社等監査事務所に対して、企業への協力を促す会長声明を発出いただき感謝申し上げます。この結果、3月期決算会社は、約58%の企業が株主総会前に開示しました。金融庁ではこの取組みが一層進展するよう、制度横断的な検討を進めてまいります。

第二はサステナビリティ情報等に関する開示と保証についてです。第三者による保証制度について今月、中間論点整理を公表しました。公認会計士の皆様には重要な役割を担っていただきたいと期待しております。

第三に、金融審議会において、投資判断に資する企業情報の開示のあり方や環境整備について検討を行うように諮問しました。成長企業への投資促進の観点から、有価証券報告書の提出免除基準引き上げの検討など行う予定

です。公認会計士をはじめとした関係者の皆様とも協力して議論を行ってまいります。

山道裕己 日本取引所グループ取締役兼 代表執行役グループCEO

東証では新市場区分が2022年に始動してから3年が経過しました。2023年からはプライム市場とスタンダード市場の全上場企業に、資本コストや株価を意識した経営を要請しています。これは特に経営者に対して、投資者目線に立って資本収益性を高める取組をお願いしたいというメッセージです。要請から2年が経過し、多くの企業に課題認識が浸透し、取組の開示が進んでいます。

グロース市場改革では、上場維持基準の見直しのみならず、IPOを支援する監査法人や証券会社の皆様とも連携して、高い成長を目指すIPOを生み出して行ければと思っています。

東証の取組の前提は財務情報の信頼性が確保されていることであり、質の高い監査が必要不可欠です。さらに皆様の業務は財務諸表監査にとどまらず、組織内で活動される方が増加するなど活躍の場が広がっています。皆様のご支援を賜りながらより信頼できる魅力的なマーケットづくりをともに進めてまいりたいと考えております。



日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループCEO 山道裕己様

次世代が輝く社会をつくらう

研究大会大阪大会のPR

懇親パーティー開催

懇親パーティーでは、南新会長が新執行部を一人ひとり紹介した。南新会長は「社会に信頼を築き、次世代が輝く社会を創造していきたい」と抱負を語り、ミッションとして、①監査の信頼性と魅力の向上、②多様な領域で活躍する会計士の支援、を掲げ、その基盤として人材育成、国民の会計リテラシーの向上、協会のがバナンス改革を提示した。

任期は3年と短い。2年後をマイルストーンと定め、その時点での会則変更を公約に掲げて「ロケットスタートで改革を進めていく」と所信を述べた。





自由民主党 公認会計士制度振興国会議員連盟 会長
岸田文雄 衆議院議員

33年ぶりの賃上げ、GDP600兆円、東証時価総額1,000兆円など前向きな動きが出ています。この経済の動きを確実にものにするために資産運用立国を進めています。皆様の貢献に期待しています。



公明党 日本公認会計士懇話会 会長
若松謙維 参議院議員

長年私の政治活動を支えていただいたことを心から御礼申し上げます。後継者は佐々木雅文（弁護士、税理士）です。私は会計士の現場に戻って頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。



立憲民主党公認会計士制度推進議員連盟 幹事長
小宮山泰子 衆議院議員

議連の野田会長から挨拶を預かって参りました。「公認会計士の皆様なくしては、日本企業の競争力向上と経済の発展はあり得ません。」公認会計士制度の維持発展のため共に全力を尽くして参ります。



国民民主党 公認会計士制度推進議員連盟 会長
古川元久 衆議院議員

政治もガバナンス・透明化が大事だと、政治資金監視委員会の設置法のチームを作り、作業を始めました。政治への信頼を取り戻すために、専門的な立場から先生方にご指導を頂きたいと思っています。



瀬戸隆一 内閣府副大臣

コーポレートガバナンス改革アクションプログラムは、企業と投資家の自律的な意識改革を重視しています。緊張感ある信頼関係に基づく建設的な対話のために、情報開示の信頼性確保をお願いします。



自由民主党 金融調査会 会長
片山さつき 参議院議員

自民党の金融調査会会長を4期連続務めており、皆様と共に会計制度を作っていく気概で取組んでいます。のれんを含む会計基準は、まずは諮問会議で議論されることとなり、良い結論の作り方だと思っています。



杉久武 参議院議員

萩原佳 衆議院議員

林芳正 衆議院議員

古賀篤 衆議院議員

片山さつき 参議院議員



竹谷とし子 参議院議員

若松謙維 参議院議員



岸田文雄 衆議院議員



泉健太 衆議院議員



瀬戸隆一 衆議院議員



古川元久 衆議院議員



平将明 衆議院議員



小宮山泰子 衆議院議員

大串博志 衆議院議員

伊藤達也衆議院議員による 地域視察に同行

2025年6月26日

レポーター：高橋大貴（日本公認会計士協会四国会 総務担当幹事）

田舎に芽吹く、未来への兆し。

2025年6月26日、伊藤達也衆議院議員による香川県三豊市での地域視察に同行させていただきました。三豊市は人口約5.7万人と県内第3位ですが、20年前から約20%減少し、高齢化も着実に進行しています。

そんな三豊市仁尾町に移住し、地域プロデューサーとして著名な古田秘馬氏より、「瀬戸内暮らしの大学」や「UDON HOUSE」など、共創型の地域づくりの取り組みをご紹介いただきました。続いて、地元スーパーの3代目・今川宗一郎氏からは、古田氏のアイデアも取り入れた新規事業（宗一郎珈琲など）や、地元民と移住者・観光客が絶妙な距離感で良好な関係を築くための工夫について伺いました。

外部の視点が地元の原石を掘り起こし、地元がその価値を主導して磨き、事業化していく。その過程には、なれ合うことなく率直に意見を交わす対等な関係性がありました。この在り方に、地方の未来への兆しを強く感じました。



プレゼンター：(株)umari 代表取締役 古田秘馬氏

聞き手側：伊藤達也 衆議院議員、中小企業庁 山下長官



プレゼンター：地元スーパー 3代目兼(株)ウルトラ今川 代表 今川宗一郎氏

聞き手側：伊藤達也 衆議院議員